

教育研究上の目的

文芸文化学科は、ことばを有する人間によって生み出された文化・芸術を深く理解し、それに基づいて、新たな文化を創造、発信する人材を養成する。また、人間生活の全般において、人として知的に成熟することを目指す人間を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化への深い理解と洞察力をもっている
2. 身近な芸術・文化の営みを体験しながら学び、さらに調べて考察し、確かな言葉で表現できる
3. 幅広い知識とその知見を生かし、さまざまな分野に貢献できる

そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（文学）」の学位を授与する。

①知識・理解・技能（技法）・表現

1. 社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている
2. 芸術文化に関する幅広い知識を身につけている
3. 日本の芸術文化の特性および歴史に関する知識を身につけている
4. 芸術文化に関する基礎的な表現能力を身につけている

②思考・判断

1. 他者・他文化を理解し受け入れることができる
2. 自己・自文化を理解することができる
3. 多種多様な文化を読み解くことができる

③関心・意欲・態度

1. 情報の収集を行い、的確に分析することができる
2. 自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる
3. 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸文化学科では、ことばを有する人間によって生み出された文化・芸術に向き合い、人間とことばへの理解を深めると共に、多彩な表現活動の意味を認識し、芸術・文化の創造的な働きや豊かな広がり、およびその価値を感得するカリキュラムを設定している。

1年次は、専門必修科目である「基礎科目」「日本語科目」「演習科目」の各領域のうちの日本語、文化・文芸に関する基礎的な学習を中心に、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を身につける。

2年次は、思考力、分析力、語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養う PBL 型「文芸・文化ゼミ」を中心に、1年次で習得した知識・技能を発展、拡充する。

また、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで興味・関心のあり方を見定め、「専門基幹科目」の履修により

3年次のコース選択に備える。

3年次は、芸術文化コース、日本語・日本文化コースのいずれかを選択し、少人数制のゼミにより専門分野への考究を深め、4年次は、学びの集大成として卒業研究に取り組む。

各領域の学修方法および学修過程は、次の通りとする。

◆専門必修科目 基礎科目

1. 文化関連の基礎知識を身につけ読書に取り組む
2. 文化関連の基礎知識を自ら収集する
3. 文化関連の基礎知識を活用して考察を深める

◆専門必修科目 日本語科目

1. 日本語の基礎を学び、日本語について関心を持つ
2. 日本語を正しく用い、目的や場面に合わせた効果的な文書を作成する
3. 高度な日本語運用能力を持って、自らの思いや考えを的確に表現する

◆専門必修科目 演習科目

1. 人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ
2. 人文科学の基本的な研究方法を学ぶ
3. 自らの課題を設定し探究する

◆専門基幹科目 芸術文化基礎科目

1. 芸術・文化関連の専門知識を身につけ読書に取り組む
2. 芸術・文化関連の専門知識を自ら収集する
3. 芸術・文化関連の専門知識を活用して考察を深める

◆専門基幹科目 日本語・日本文化基礎科目

1. 日本語・日本文学関連の専門知識を身につけ読書に取り組む
2. 日本語・日本文学関連の専門知識を自ら収集する
3. 日本語・日本文学関連の専門知識を活用して考察を深める

◆専門基幹科目 専門を学ぶための基礎科目

1. 多様な文化に関する専門知識を身につけ読書に取り組む
2. 多様な文化に関する専門知識を自ら収集する
3. 多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深める

◆専門選択科目 芸術文化領域

1. 芸術・文化関連の基礎知識を主体的に身につける
2. 芸術・文化関連の専門知識を主体的に身につける
3. 多様な知識を関連づけて理解する

◆専門選択科目 日本語・日本文学領域

1. 日本語・日本文学関連の基礎知識を主体的に身につける
2. 日本語・日本文学関連の専門知識を主体的に身につける
3. 多様な知識を関連づけて理解する

◆専門選択科目 創作表現領域

1. 創作技術の修得に向けて訓練する
2. 関連分野作品を鑑賞し考察する
3. 自らの課題を設定し創作する

◆専門選択科目 総合文化領域

1. 学際的な基礎知識を主体的に身につける
2. 学際的な専門知識を主体的に身につける
3. 多様な文化を総合的に捉える

◆卒業研究

1. 資料を収集し自己の研究課題を設定する
2. 自己のテーマに沿って調査を重ね研究を進める
3. 自らの研究を客観的かつ論理的に表現することができる

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

文芸文化学科では、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の中に込められている建学の精神に基づき、自分自身の生きがいを持ち、自分の力で世の中の役に立てるような、勉学意欲の高い人を迎え入れる。

1. 言葉を有する人間が生み出した文化・芸術全般に知的な好奇心を抱き、それを追求するのに必要な知性と感性を養いたい人
2. 論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を身につけたい人
3. 生涯にわたって持続可能な教養を身につけたい人

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 文学や文化・芸術を理解するために必要な高校までの教科・科目の基礎的な知識を身につけている
2. 文学書を理解できる国語力を有する
3. 文化・芸術を理解するために必要な地理・歴史の基礎的な知識を身につけている

②思考力・判断力・表現力

1. 資料（文章・データ等）から課題や問題点を見つけ、改善するための考えを伝えることができる
2. 自分の体験やこれまで得た知識などを活かし、テーマについての考えを文章で伝えることができる
3. 質問に対して臨機応変に答えることができる

③主体性・多様性・協働性

1. 自己の研究課題の探究ができる
2. 状況に応じたアプローチができる
3. 他者との意見調整ができる